

# 大和合金

## 航空機向け販売好調

### 特殊銅合金、海外で認定

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社「東京都板橋区、萩野源次郎社長」)は、航空機向けの販売が順調に伸びている。航空機の足回り部品に使われる銅合金を国内外の航空機部品メーカーに納めているが、このほど独メーカーで新たに採用が決まり、今月より出荷を開始する。このほかにも認定待ちの海外有力メーカーがあり、まずは年率20-30%ペースで航空機向け販売量を増やしていきたいと考えている。

同社は航空機のランディングギア用ブッシュ(軸受)に使われるアルミ青銅と高力黄銅の管・棒を製造。航空機関連展示会への出展などを通じて海外の顧客を増やし、2014年度(17年3月期)は3倍程度になりそうだと見込んでいる。今後の成長戦略として、16年度(17年3月期)は3倍程度になりそうだと見込んでいる。今後の成長戦略として、16年度(17年3月期)は3倍程度になりそうだと見込んでいる。

新たに決まった。

17年度は、リーフヘル社向けの本格化により航空機向けの販売量がさらに大きく増える見通し。また、すでに納入している欧州大手

メーカーとも、新造機向け認定材料の品種を増やしてもらう方向で交渉を進めている。採用拡大に手応えを感じており、18年度には販売増に寄与すると期待する。

同社の売上高は年間50億円弱。航空機向けは16年度で5-6%になる見通しだが、18年度には10%以上まで引き上げたい考え。航空機向けで伸びているのはほとんどが海外のため、海外売上高比率も現在の1割弱から高まってくる見通し。

**17年3月期 売上高47億円台**  
需要好調、最高を更新  
大和合金は、2011年度の売上高が前年より1割強多い47億円台にな

りそうだと見込んでいる。今後の成長戦略として、16年度(17年3月期)は3倍程度になりそうだと見込んでいる。今後の成長戦略として、16年度(17年3月期)は3倍程度になりそうだと見込んでいる。

17年度は自動車や半導体などで底堅い需要が続くと予想。また、光ファイバー海底ケーブル向けもスポットの大型案件が入ってくる見込みで、16年度より改善するとみている。

きょうの紙面

大和合金、航空機向け販売好調

産業春秋・高田憲二・大阪伸銅品問組理事長 (3面)

ルポ…富山市のエコタウン事業⑤

(5面)

13面